

令和8年度 矢田駅周辺エリア活性化推進業務委託にかかる
公募型プロポーザル方式による選定結果について

1 案件名称

令和8年度 矢田駅周辺エリア活性化推進業務委託

契約期間 契約締結日から令和9年3月31日まで

2 選定した委託予定事業者

エリア活性化推進業務共同事業体

3 公募期間

令和8年7月3日から令和8年7月22日

4 学識経験者等の意見を聴取する選定委員による審査の結果

(1) 選定委員名簿（敬称略・五十音順）

委員氏名	役職等
田中 晃代	近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 教授
中津 功一郎	大阪総合保育大学短期大学部 現代生活学科長
吉田 隆司	一般財団法人大阪デザインセンター 専務理事

(2) 選定会議の開催日

令和8年8月20日

(3) 審査基準

審査項目		審査内容	配点
企画提案内容		業務目的の理解度	15点
		団体の組織化支援に向けた取組の有効性	30点
		イベントの企画・運営における取組の有効性	20点
		エリア情報の発信手法の妥当性	10点
業務 実施 体制	実施体制の 的確性	予定スタッフの動員計画・実施体制	5点
	同種・類似 業務の実績	同種又は類似業務の実績内容	5点
業務実施計画		業務フロー、工程計画の実現性	10点
積算の妥当性		費用積算根拠の妥当性	5点
合計			100点

(4) 審査を行った事業者

エリア活性化推進業務共同事業体 全1者

(5) 審査の結果（選定委員の評価点の合計点）

審査内容	
業務目的の理解度	39 点
団体の組織化支援に向けた取組の有効性	66 点
イベントの企画・運営における取組の有効性	48 点
エリア情報の発信手法の妥当性	18 点
予定スタッフの動員計画・実施体制	11 点
同種又は類似事業の実績内容	13 点
業務フロー、工程計画の実現性	24 点
費用積算根拠の妥当性	10 点
合 計	229 点

5 付帯意見

・「バイローカルの日」を手法として地域の自走につなげるという道筋が明確に示されており、他地域での豊富な実践に裏付けられた実現性の高い提案である。一方で、イベントの実施状況にとどまらない、本事業そのものの成否を判断する基準が明確でないと感じられた。効果測定の手法を含め、KPI を明確に設定されたい。

・最終的な受益者を地域の生活者に置き、地域内の消費行動そのものの変化を促すという着眼点は、本事業の趣旨に合致するものである。それだけに、仕組みやノウハウの提供以上に、地域側の意識をいかに変えていくかが事業の成否を左右する。初年度のうちにその土台を築くとともに、自主財源の確保を含めた将来的な自走の見通しを明らかにされることを期待する。

・提案されている発信の規模では、矢田エリアの魅力に対する認知不足を解消するには十分とは言えない。媒体特性の適合性を含めて再検討のうえ、地域が継続的に発信できる体制づくりを進められたい。

・事業を進めるにあたっては、初動の段階から参加者を広げることに努め、開かれた進め方を意識されたい。